

全国農業協同組合連合会（J A全農）は10月から、かたくり粉などに使う「ばれいしょでんぷん」の出荷価格を1割程度引き上げる。昨夏の台風被害により産地の十勝管内などで、でんぷん生産量が減ったため。値上げで現場の生産意欲を高める。

十勝の生産者は歓迎

昨夏の台風や長雨の影響で、管内をはじめ道内では原料になるジャガイモの収量が少なく、でんぷんの生産量も減った。国産の「ばれいしょでんぷん」は全て道内で作られており、昨年産は前年より19%減の約15万トン。全道の生産量の約3割を占める管内も、1～3割少なかった。

このため、でんぷんを販売するJ A全農では、10月に出荷価格を改定し、1キロ当たり約15円引き上げて、160円程度とする。生産者の手取り価格の上昇も期待される。

食用や加工を含めたジャガイモの生産量は、労力が少なく収益の高い他の作物への転換などで減少傾向。「ばれいしょでんぷん」の生産量も30年前に比べて半減した。ただ、国産志向や粘度の高さでかたくり粉や菓子など幅広い食品などへの需要がある。昨年の台風被害ではポテトチップスの原料不足も課題となる中、6年ぶりとなる出荷価格の値上げで生産量を確保する狙いがある。

十勝東部の9 J A産のでんぷんを製造する東部十勝農産加工農協連合会は「しばらく価格が上がっていなかったもので、生産者への還元になって良いこと」と歓迎している。

あの日から～台風1年

2017年8月24日

復旧農地 土壌改良へ 国事業活用し2カ年で 芽室町

【芽室】町は、昨夏の台風による表土流出や土砂堆積の被害を受け、河川掘削土による客土を行ったほ場に対し、町内の農地の土壌を活用した土質改良事業に乗り出す。事業は今年度から2カ年。9月に希望を受け付け、作物収穫後の11月から工事を行う。28日の町議会総務経済常任委員会で詳細を報告する。

被災農地に対しては、早期復旧を目的に、国や道、自治体、J Aなどが連携し、国の治水工事で出た土を活用した復旧事業が進められている。掘削土を入れた農地では、順調に作物が生育している畑がある一方で、「土が硬い」「粘土質で水が引かない」といった声も寄せられていた。

国の農地耕作条件改善事業の緊急対策を活用し、「災

害復旧の補完的整備」として土層改良事業（定率助成）を行う。町の呼び掛けに応じた被災していない町内の十数件の農家の土壌から適した土（砂質）を選び、各ほ場に10センチ程度を入れて混ぜる。町によると、研究機関からはこうした方法で土壌の改善が見込めると報告されている。

同事業の補助率は5割で、残りは受益者負担となるが、農地の流出被害に遭ったほ場の工事については受益者負担5割のうち一部を町が補助する方針。

町内の被災農地108ヘクタールのうち流出被害は56.8ヘクタール。町は要望を取りまとめ、10月に臨時会議を開いて補正予算を提案する予定。